

ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

チボリの子ども支援—これまで、これから —

所期の目的を達成して、JOFPA(チボリ国際里親の会)が、その33年間の活動を終了してから2カ月、JOFPAのパートナーだったSCM学校法人は、すでにご報告のように、ニアン、ツブラン、エルロウの3小学校の運営を政府に依頼(校舎はそのまま使用し、教師は政府が派遣)、残る計6校(小学校3、ハイスクール2、カレッジ1、合計2327人)で、6月3日から前期授業が始まりました。

SCMSIの学校数やJOFPA会員数がピークだった1990年前後には、計35校の学校運営はほぼ100%JOFPAにより支えられていましたが、昨年度JOFPAが担ったのは全9校の運営費のうち約40%でした。

JOFPAから最後の支援金がSCMSIに届けられたのは5月です。6月新学期以降どうするか、その判断はHANDSにゆだねられました。

支援目標を達成したJOFPAに対して、継続希望会員の受け皿となったHANDSとしては、新たな目標を設定する必要がありますが、まだ、レイクセブ町の教育事情等、判断材料がそろっていません。

約120人の里子の教育機会を保証するために、SCMSI学校運営支援は続けることにして、理事会、総会での承認を経て、月額130,000ペソ(一人月額6500ペソ/約15,500円の教師給与の19名分に当たります)を、まずは、6、7月分送金いたしました。

里親がいる子どもの場合は、従来通り、貧困度に応じて、授業料(各年額ペソ、小学校800、ハイスクール3,550、カレッ5,670)、給食費、制服代免除などの支援が受けられることになっています。



里子の数が29人と一番多いレムエヘックハイスクール。その新入生(7年生)のクラスです

民族の伝統文化継承を、カリキュラムに取り入れるとともに、質の高い教育を授ける私立学校という位置付けがされるようになったSCMの学校運営をいつまで支えるか、公立校に通う貧しい子ども、学校にも行けない子どもを支援するにはどうしたらよいか、これから少し時間をかけて、皆さまと今後の「チボリの子ども支援」のあり方を考えていきたいと思います。

1) SCMSI 小学校の在籍生徒数と教師の数 6/30 現在

学年	レムエヘック	ラヒットCC	ベネフ
幼稚部	39	0	0
1年生	30	26	24
2年生	32	27	31
3年生	30	29	29
4年生	32	35	13
5年生	32	28	14
6年生	34	13	18
合計	229	158	129
教師の数	11	5	3

2) SCMSI ハイスクール及びカレッジの在籍生徒数

学年	ハイスクール		学年	SCMSI カレッジ
	レムエヘック	デコロン		
*7年生	179	238	1年生	220
*8年生	129	212	2年生	118
3年生	134	166	3年生	72
4年生	139	145	4年生	59
合計	581	761	合計	469

* ハイスクールは、2012年度から、従来の4年制を、6年制に変更、学年も、2012年新入生から、小学校からの続きで7年生、8年生と表記されています。ご了承ください。

COWHEDの古い事務所をSCMSIの学生寮に



SCMSIの入学手続きが一段落した6月始め、COWHEDのジェマさんから、今は使われていない旧事務所のSCMSI学生寮への改修工事支援の打診がありました。6年前、HANDS松尾基金で、セブ湖を見下ろす位置に店舗と事務所を兼ねる「伝統の家」を支援してからは、使用頻度が減った旧事務所は、古いけれど結構大きな2階建てです。少し手を加えれば、20人程度は受け入れ可能です。

既存の寮や下宿は超過密状態で勉学に支障が出てきたSCMSI学生たち。部屋代収入に期待したいCOWHED。両者のニーズを満たす事業として、改修経費35,000ペソ(83,000円)の支援をきめました。